

モニタリングレポート(令和5年度)						
施設名		鈴鹿市第2療育センター				
施設所在地		鈴鹿市岡田701番地				
指定管理者名		社会福祉法人鈴鹿市社会福祉協議会				
評価担当課		障がい福祉課		問合せ先	059-382-7626	
施設の運営状況		(確認方法)月次報告, 事業報告書				
児童発達支援事業延べ利用者数	2,794名	放課後等デイサービス延べ利用者数	333名	保育所等訪問事業	18件	
事業収支		(確認方法)事業報告書				
項目		計画値(単位:円)		実績値(単位:円)		計画比(単位:円)
指定管理料		33,790,000		33,790,000		0
障害福祉サービス等事業収入		40,222,000		40,272,488		50,488
その他		620,000		621,306		1,306
事業活動収入計		74,632,000		74,683,794		51,794
人件費(給与・法定福利費等)		65,417,000		65,873,866		456,866
事業費		1,042,000		955,423		▲ 86,577
諸謝金		202,000		201,208		▲ 792
保健衛生費		62,000		50,792		▲ 11,208
保育材料費		148,000		125,713		▲ 22,287
消耗器具備品費		505,000		464,732		▲ 40,268
教育指導費		72,000		67,991		▲ 4,009
車両費		53,000		44,987		▲ 8,013
教養娯楽費		0		0		0
事務費		5,579,000		5,435,454		▲ 143,546
福利厚生費・旅費・研修費		453,000		440,447		▲ 12,553
事務消耗品費・印刷製本費		402,000		369,731		▲ 32,269
水道光熱費		823,000		786,371		▲ 36,629
修繕費		21,000		20,900		▲ 100
通信運搬費		343,000		331,553		▲ 11,447
会議費・広報費		12,000		5,251		▲ 6,749
業務委託費		1,368,000		1,363,240		▲ 4,760
手数料		31,000		21,413		▲ 9,587
保険料		273,000		269,150		▲ 3,850
賃借料・租税公課		1,165,000		1,163,333		▲ 1,667
保守料・渉外費		688,000		664,065		▲ 23,935
負担金		10,000		10,000		0
事業活動支出計		72,048,000		72,274,743		226,743
事業活動収支		2,584,000		2,409,051		▲ 174,949
施設整備等による収支		0		0		0
その他の活動による収支		▲ 4,304,000		▲ 4,178,424		125,576
当期資金収支		▲ 1,720,000		▲ 1,769,373		▲ 49,373

評価項目	確認方法	評価	所見
業務の履行確認 (計画書や仕様書の内容を満たしているかを○×で評価)	月次報告書	○	適切に履行されている
	現地調査	○	適切に履行されている
	定例報告会	○	適切に履行されている
サービスの質 (「優良・良・普通・要改善」の4段階で評価)	アンケート	優良	要望はあるが、利用者は満足している
	現地調査	優良	利用者への支援内容は適切である
業務遂行能力 (各種財務指標等を参考に同業他社との比較も含めて○×で評価)	貸借対照表 (拠点区分)	○	純資産がプラスである。
	年度事業報告書 (収支計算書)	○	当期資金収支差額合計、当期末支払 資金残高ともにプラスである。
	年度事業報告書 (財産目録)	○	資産が負債を上回っている。(差引純 資産がプラス)
年度業務報告書の内容評価			(適)・不適
業務の履行、サービスの質、業務遂行能力いずれの点においても適切に実施されている。			
定例報告会の頻度と内容の評価			(適)・不適
月1回の定例報告を受けている。 課題等については、随時協議を行っている。			
緊急時の対応評価			(適)・不適
緊急的な報告を要する案件はなかった。 法人内部での報告体制はできており、必要事項は市にも報告される。 また、基本的な衛生対策も適切に実施している。			
指定管理者の総括評価			(適)・不適
業務の履行やサービスの質、業務遂行能力では問題はなく、また、児童発達支援センターとして、圏域における中核施設としての姿勢も良好である。			
施設の課題と対策			
旧牧田幼稚園を改修し開設した施設のため、利用にあたり注意が必要な環境(廊下が屋外に面しており、すぐに屋外に飛び出すことができる環境等)ではあるが、運営上の配慮を行い円滑な運営を行っている。 今後も環境面に対応した配慮を行い、利用者が安心して利用できる運営を行っていく必要がある。			
施設の方向性			
鈴鹿市第1療育センターとともに、「児童発達支援センター」として、本市の児童発達支援における中心的な役割を担っており、今後は障害者総合相談支援センターあいとも連携と取りながら、引き続き継続した運営を行っていく。			